

2022年12月

学校法人東放学園
東放学園高等専修学校 殿

2022年度 学校関係者評価報告書

東放学園高等専修学校
学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価委員

【関連業界関係者】

中島 史雄 漫画家 元・本校講師

【卒業生】

長谷川 唯 声優・女優 ホーリーピーク所属

【教育、学校運営に関し知見を有する者】

工藤 優彦 学校法人高宮学園 代々木ゼミナール 教育総合研究所 シニアコンサルタント

2. 事務局

清水 大樹 東放学園高等専修学校 校長

田辺 裕章 教務教育部 部長

橋本 光一 学務管理部 部長

米倉 寿雄 入学広報部 部長

山田 未来 教務教育部 主任

佐藤 ひとみ 入学広報部 主任

近江 綾子 教務教育部

3. 学校関係者評価委員会の開催状況

2022年 9月30日(金) 14:00～16:00 東放学園高等専修学校 5B教室

4. 学校関係者評価結果

※別紙のとおり

※別紙

4. 学校関係者評価結果

【評定の内容】

- 4 : 適切に対応している。課題の発見に積極的で、今後更に向上させるための意欲がある。
- 3 : ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
- 2 : 対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取り組む必要がある。
- 1 : 全く対応しておらず不適切である。学校の方針から見直す必要がある。

I. 2021年度重点目標について

重点目標 1「渉外活動、Web関連の強化、入学者44名以上の確保」について

総 評	評定
<p>HPに関して、見やすくなり洗練された。学内でのリアルな日常がイメージできる動画が欲しい。入学者は多いにこしたことはないが、今の良さであるきめ細かなフォローが生徒にできる適正值はどこかを明確に把握する必要はあると思う。</p> <p>コロナ禍が続いている中、主に非接触型のアプローチを強化した。その効果はいくつかの面で観測されたが、入学者数は高校との併願者の入学辞退者が増加したため減少となった。働きかけの方向性は妥当と思われるが、そもそも高等課程への進学希望者の分母は小さいため、より効果的なルートに注力する考え方もある。ホームページについてはリニューアルしたものの、更新頻度が低い点を改善する必要がある。</p> <p>ホームページでは在校生たちの笑顔や真剣なまなざしが見受けられる画像が多く、学校の空気がよく感じられるとても洗礼されたデザインだと思った。「総合的な学習の時間」については、総合科との大きな違いである芸術科である部分を、生徒からの関心はもちろん、保護者の方や中学校の教員の関心も同時に得られるような情報を明確に表すことができれば、本校の特別感が最大の魅力であることを引き出すことができるのではないかと。</p>	3

重点目標 2「カリキュラムデザインの調整、学校グランドデザインのアップデート」について

総 評	評定
<p>コア科目のシラバス見直しと欠席者対策としての補習課題の提供システム構築は評価できる。授業全般にわたって改善の意欲が高いのも大変評価できる。</p> <p>本校の特色である「体験型学習」や「Artと一体となった教育」は、新学習指導要領が目指す学びの形に非常に近いものである。この点をより深く理解し、強く打ち出していくことも可能である。</p> <p>常に変動していくニーズに対し、最新機器やツールを導入しながら学業・生徒のサポートをしていくことはとても重要なことだと考える。生徒が自分自身の評価と向き合っていく機会を増やしつつ、欠席者へのフォローに対しても引き続きしっかりと取り組んでいくことが必要と考える。</p>	4

重点目標 3「卒業率90%以上、目的を持った卒業」について

総 評	評定
<p>愚痴や相談という形で女子生徒は悩みを訴えることはあっても男子生徒は実にわかりにくく、「様子から察する」しかなかった。複数の目で見守る。気づいたことは講師、教務間で共有できればと思う。そのためにも講師、教務が話し合える多少の余裕は必要かと思う。(高齢者目線)</p> <p>個別対応やきめ細かな指導により、着実な進路実績を実現している。メンタル面に不安のある生徒はすべての学校で増加しており、本校だけの課題ではない。より広い観点からこの課題をとらえ、キャリア教育のあり方を見直すのも意義があると思われる。</p> <p>早い段階で進路について考えることは大切だが、1年次は進路や夢が定かではなかったり、1年次で思い描いていたことが3年次になって変動してくる等、心がゆらぎやすい時期でもあるため、進路を決めるだけでなく、職業の視野を広げながら進路を考えていけるような指導も含めていくと、よりよいと感じる。</p>	3

II. 評価項目別取組状況について

基準1 教育理念・目的・育成人材像

総 評	評価
<p>経験上、生徒の成長に驚かされたが、それは年齢的に成長期なので一般高でも同様と思うが、もしかして学園の特徴である「自分に合った科目を選択できる。だから課題もクリアでき、自己肯定感が強まる」というサイクルの成果という可能性もある。とすれば、高等専修学校の存在意義は高いものがある。</p> <p>教職員の「生徒を信じる力」が生徒の「自らを信じる力」を育てている点が、本校の特長であると感じた。自らを信じる力が、変化の激しい業界においてもそれぞれの未来を切り開く原動力となる。この特長は今後も保持し続けてほしい。</p> <p>教育理念に添いながら、時代のニーズにあわせていくことに対し全体的に重点をおいていることがよくわかる。講師を通して業界のリアルタイムな状況を伝えたり、共有していくことで、生徒の教育に深いつながりがあるのではと感じた。</p>	4

基準2 学校運営

総 評	評価
<p>堅牢なセキュリティ構築への業者、委員会の評価と見直しも図られ意欲的に取り組んでいる。</p> <p>学校運営については教職員が目標を共有し、努力している。各種環境の整備にも配慮している。</p> <p>教職員の方々は生徒により近い場所にいるため、教職員のモチベーションは生徒にとってかなりの影響がある。ぜひ今後も教職員の意識を高く持っていただき、運営方針に準じ職場としてもクリーンな学校運営をめざしてほしい。</p>	4

基準3 教育活動

総 評	評価
<p>まだ進路のかたまりない生徒に対して、異分野の授業を受けることができるのは専門学校と違う点である。イラストを専攻された生徒さんが急に声優、ヘアデザイナーなどに興味を持ち進路を変えた例もある。柔軟な体制が大きなアドバンテージである。</p> <p>新学習指導要領にもとづくカリキュラムの再編がやや遅れている。生徒が多様化しているため視点が拡散しがちになるが、本校教育の大きな特徴である「Art」をカリキュラムの核に据えた見せ方もある。</p> <p>専門科目における授業と通常科目授業の両立に関して、生徒それぞれに学ぶ速度は異なるため、必要な課題と向き合うことも大事ではあるが、生徒自身の勉学におけるポテンシャルを保つことが重要ではないかと思った。</p>	3

基準4 学修成果

総 評	評価
<p>資格取得を指導支援する体制が整い、検定合格者が増加しているのは大変評価できる。</p> <p>在校生の成果物を一部でもホームページ上に発表するスペースがあればと思う。モチベーションが上がる生徒と拒否する生徒がいそうだが。</p> <p>成果を上げるためには、「適切な目標の設定」「必要性・実効性が感じられる学習」「生徒の状況に応じた支援」、そして「評価の機会」などが必要となる。目標は学習の進展により変化しうるものであり、その意味で評価は結果の診断以上に、学習の改善に生かされることが重要。</p> <p>常に向上心を保つことができるよう、現場の声を直接生徒たちへ聞かせることを強化していただきたい。あこがれの気持ちから将来につながる機会がたくさんあることで、良いことも悪いことも生徒自身で考える時間が増え将来に役立つのではないかと。</p>	3

基準5 学生支援

総 評	評価
<p>進路、就職、学生生活、きめ細かく対策を取られている。卒業生へのフォローも業務が増えるがよく対応している。入試、就職対策もとられている。専修学校という性格上進路が本当に多様であるためリソースの配分が適切になされることを望む。教職員の方が上級救命講習 資格習得目指しているのはすばらしい。</p> <p>現状でも支援体制は十分整っていると思われるが、学園のメリットを最大限生かして、さらに多様な進路の実現を図ってほしい。</p> <p>集団行動における自己肯定感の構築も大切なことだが、これから自立していく社会人として言葉遣いや最低限のマナー等、社会に出てみるとできているようで、実はできていないことがたくさんあることがわかる。そのため、履歴書等の書き方はもちろん、どの現場に出ても恥ずかしくないような第一印象をよくするための授業等を設け、内面からのサポートもできるとより充実するのではないかと感じる。</p>	4

基準6 教育環境

総 評	評定
<p>照明もLED化され、校内は清潔に保たれています。常駐の警備員の姿が見えるのもいい。</p> <p>施設・設備・防災・安全面で大きな問題はないと思われる。校外学習やインターンシップについては「学習の実効性」を体感できる機会として非常に重要と思われるので、充実を望みたい。</p> <p>新型コロナウイルスの影響もあるが、今後生きていく上でも自身の健康管理にも通ずる部分があるため、引き続き健康を保つために必要な手洗い等、簡単にできる感染症対策を、教室や学校設備を使用する中で伝えていくことも重要である。</p>	4

基準7 学生の募集と受入れ

総 評	評定
<p>生徒募集、受け入れは熱意をもって対策されている。改めて現生徒から、入学決意の決め手、興味を持った体験入学の内容を再調査し、オープンキャンパスのブラッシュアップなどの取り組みを期待する。</p> <p>関係者(中学教員・保護者等)向けの情報提供はこれまでどおり継続する方向でよいと思われるが、入学検討者に対する情報発信についてはまだまだ改善の余地がある。「学校が伝えたい情報」をそのまま発信するのではなく、「検討者が知りたい情報」を軸に「学校が伝えたい情報」を伝える工夫がほしい。限られた分母であるので、情報ルートについてはさらに検討を要する。</p> <p>昨今のSNSの普及や動画配信ツールなどで誰でも表現者になることができる世の中において、東放学園高等専修学校の存在は絶好の環境であると考えます。デビュー系等の専門課程のイメージが突出しているような感覚があるので、中学校や保護者に対しては通常科目も充実している(させていく)ことを出すことにより、認知度アップにつながるのではないかと。</p>	3

基準8 財務

総 評	評定
<p>適切に財務情報は学園ホームページに公開され、収支バランスは良好です</p> <p>学園全体としては健全な財務状況である。高等課程の位置づけにもよるが、今後より独自性を発揮したいのであれば、高等課程での収入増も目指す必要がある。</p> <p>収入と支出をバランスよく考えられており、それぞれの財務管理についても視覚化しつつ適正な方針に沿っていることが見受けられる。</p>	4

基準9 法令等の遵守

総 評	評定
<p>コンプライアンス遵守の意識は高く、生徒に対して説明もなされています。ハラスメント窓口も学内に設定されている。セクハラ、パワハラの相談があった時の速やかな対応のマニュアル化は必要です。</p> <p>特に問題なし。</p> <p>現状でも十分に対策されていると感じているが、システムでの管理体制の徹底だけではなく人為的な漏洩等も懸念される。学園全体で情報の管理のありかたについて、いかなる時も自覚を持つことが望まれる。</p>	4

基準10 社会貢献・地域貢献

総 評	評定
<p>ボランティア活動から学ぶことも多い。出張授業、エンタメ系の技術を生かした地域貢献が期待される。</p> <p>コロナ禍による制限が続いているため、十分な活動ができなかった。インターンシップ同様、社会貢献や地域貢献も学習の実効性を体感できる機会であるから、積極的に取り組んでほしい。</p> <p>コロナ禍においてボランティア活動や課外活動が難しいとは思いますが、固定概念にとらわれないように、なるべく広い視野を持たせるという意味で、映像コンテンツなどを駆使し、外部団体との関わりができるようになると生徒の経験にもなり学園の知名度も上がるのではないかと。</p>	3

所感

・中学生にとって「好きなことをやれる専修か」「手堅い普通校か」という二者選択と考えていたが、「思い切り三年間好きなことをやっても大学受験、就職と進路は選べる」という面も高等専修学校にはある。進学・就職のための授業と実績のアピールを強化してもいいかもしれない。

・教職員は真摯に学校運営に取り組んでいる。ただし、真面目さが取り組みにおいてやや遠慮がちに感じられる面もある。自ら可能性を封じ込めることなく、本校の教育に自信をもち、本校の可能性をより広げようとする姿勢を望みたい。

・今回は対面で教職員の方々からの説明を受けることができ、生徒の将来性を尊重しながらも自由に学べる環境があり、めまぐるしく変わっていくニーズを取り入れつつ、様々な方法を駆使しながら、生徒だけではなく保護者・教職員へ対応していきたいという熱を感じることができた。

油断ならない情勢のなか、限られた方法でしかできないことも多々あると思うが、これからのエンタメ業界を担う若者たちの輝かしい将来を支えられるような、誇れる学園であり続けてほしい。